

はじめに

平素より地域の感染症対策にご協力いただきありがとうございます。
医療機関向け情報には **医** を、一般施設向け情報には **全** をつけています。
原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。
全数報告：第2～3週(2025/1/6～2025/1/19) 定点報告：第51～3週(2024/12/16～2025/1/19)

全数報告疾患情報

医

—— 市川保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています

※定点報告疾患については、第週のグラフを別添しております

2類感染症	2～3週	累計(年)
結核	1	3

3類感染症	2～3週	累計(年)
腸管出血性大腸菌感染症	1	1

5類感染症	2～3週	累計(年)
百日咳	1	1
侵襲性肺炎球菌感染症	3	3
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1	1

発生動向トピックス

医

全

TOPICS 1

劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)の届出がありました

市川保健所において、2025年第1週に劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)の届出が1件あり、2025年初めての届出となりました。2024年は過去10年間のなかでも最も多い届出数となりました(図1)。

また、性別では男性が女性よりも若干多く、年齢別では新型コロナウイルス感染症のパンデミック以前と比較すると、20代や30代といった若年層においても広がりが見られています(図2)。

ショック症状に次いで、腎不全や播種性血管内凝固症候群(DIC)、軟部組織炎といった症状が多くなっています。

また、推定される感染源としては創傷感染が多くなっています。

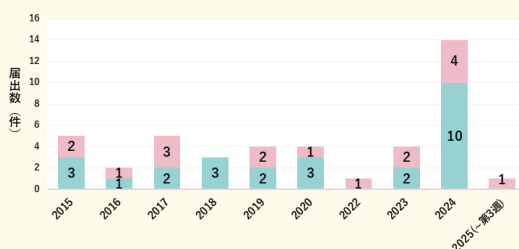


図1)市川保健所における劇症型溶血性レンサ球菌感染症届出数推移,2015年-2025年第3週

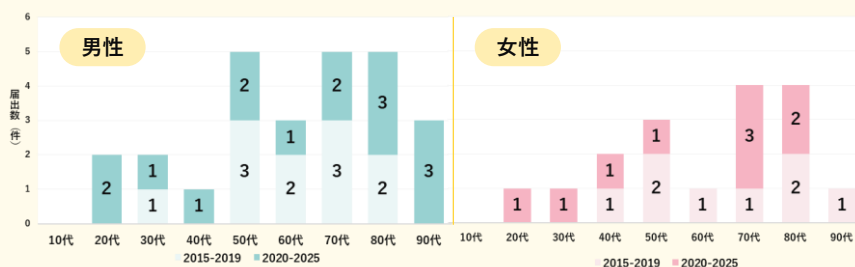


図2)市川保健所における劇症型溶血性レンサ球菌感染症届出数推移,性別・年齢別,2015年-2025年第3週

メディア等で「人食いバクテリア」等と呼ばれることがある劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、1987年に米国で最初に報告され、その後、ヨーロッパやアジアから報告されるようになりました。日本においては、毎年100～200名の患者が確認され、このうち約30%が死亡しています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主にA群溶血性レンサ球菌によって引き起こされます。免疫不全等の重篤な基礎疾患をほとんど持っていないにも関わらず、突然発病する場合があります。

初期症状としては、四肢の痛みや腫れ、発熱、血圧低下等で、発病から数十時間以内には軟部組織壊死、急性腎不全等を引き起こします。近年では、妊産婦の症例も報告されています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症に限らず、多くの感染症の予防には、手指衛生や咳エチケット、傷口の清潔な処置(汚れた手で傷口を触らない等)といった基本的な感染対策が有効です。

参照

国立感染症研究所「劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは」

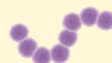
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/341-stss.html>

厚生労働省「劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html

“A群溶血性レンサ球菌”とは

上気道炎や化膿性皮膚感染症等の原因菌としてよくみられる菌です。菌が侵入する部位によって、様々な症状を引き起こします。



TOPICS 2

侵襲性肺炎球菌感染症の届出がありました

市川保健所において、2025年第3週時点で2件の届出がありました。

肺炎球菌は、主に呼吸器感染症を引き起こす菌で、90種類以上の種類に分かれています。日常的に生じる成人の肺炎のうち、約2～3割は肺炎球菌が原因と考えられています。乳幼児の鼻咽頭から高頻度に検出され、中耳炎や副鼻腔炎、菌血症を伴わない肺炎等の非侵襲性感染症を引き起こします。また、髄膜炎や菌血症を伴う肺炎等の侵襲性肺炎球菌感染症(IPD)を引き起こすこともあります。

予防として、肺炎球菌ワクチンの定期接種が行われています。

5歳未満の小児のワクチンは、2024年10月に沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)が定期接種の対象となっています。20種類の肺炎球菌に対して予防効果があります。

また、成人のワクチンは、高齢者を対

“侵襲性感染症”とは

本来は菌が存在しない血液、髄液等から菌が検出される感染症を指し、一般的に重症例が多いとされています。

IASR 34(7), 2013【特集】侵襲性インフルエンザ菌感染症
子どもの肺炎球菌ワクチン | 厚生労働省

ワクチン接種対象者とスケジュール

小児

標準的な接種スケジュール (回)

年齢	出生	3ヵ月	6ヵ月	9ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
ワクチン接種	↓	↓	↓		↓				

高齢者

① 65歳の方

注意

定期接種の機会には65歳の1年毎です。定期接種の対象となる方で、接種を希望する方は、接種の機会を逃さないようご注意ください。

注：65歳を超える方を対象とした経過措置は2024年3月31日に終了しました。

② 60～64歳で

心臓や腎臓、呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活を極度に制限される方

③ 60～64歳で

ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

象として23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン(PPSV23)が定期接種となっています。

参照

厚生労働省「子どもの肺炎球菌ワクチン」：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/pneumococcus-child/index.html

厚生省「高齢者の肺炎球菌ワクチン」：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/pneumococcus-senior/index.html

国立感染症研究所「IASR 肺炎球菌感染症 2022年現在」：

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pneumococcal-m/1372-idsc/iasr-topic/11763-515t.html>

TOPICS 3

千葉県内において高病原性鳥インフルエンザが発生しています

2025年1月12日に銚子市の養鶏場において、高病原性鳥インフルエンザが疑われる事例が発生し、1月16日に患畜と判定され、H5N1亜型であることが確認されました。以降、銚子市及び旭市の養鶏場においてH5N1亜型の高病原性鳥インフルエンザの発生が相次いで確認されています。

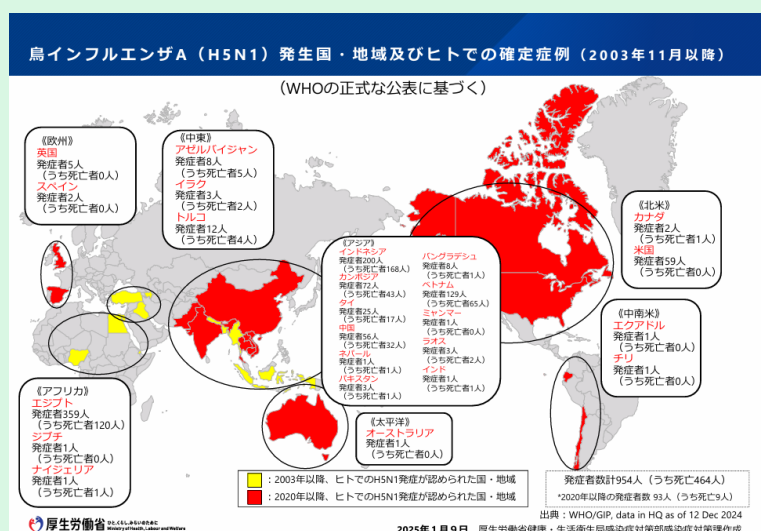
鳥インフルエンザは、鳥類に対して感染性を示すA型インフルエンザウイルスによる感染症です。自然宿主は野生の水禽類(カモ類等)で、野生のカモ由来のウイルスが家禽の間で感染を繰り返すうちに、ニワトリに対して高い病原性(感染した場合、高率に死亡させてしまう等)を示すウイルスに変異した場合、**高病原性鳥インフルエンザ**という表現を用います。

鳥インフルエンザは、**通常はヒトに感染しませんが**、感染した鳥に触れるといった濃厚接触をした場合等にきわめて稀にヒトに感染することがあります。報告されている患者のほとんどが、**家禽や家禽の排泄物、死体、臓器等の濃厚接触があった**とされています。これまで、鶏肉や鶏卵を食べることによってヒトに感染したという事例の報告はありません。

また、**ヒトからヒトに感染するのも極めて稀**です。ヒトからヒトへの感染例は、患者の介護等のために長時間にわたって患者と濃厚接触があった家族等の範囲に限られています。

愛玩用の家禽を飼育する場合は、国内で高病原性鳥インフルエンザが発生したからといって、家禽を飼育することが危険ということではありません。家禽や家禽の餌・飲み水に、ウイルスを運んでくる可能性のある野鳥等が接触しないようにし、清潔に飼育してください。小屋の掃除や世話をした後は**手洗いを忘れず行いましょう**。

世界での鳥インフルエンザA(H5N1)発生状況



参照

千葉県「高病原性鳥インフルエンザについて～県民の方々へ～」：

<https://www.pref.chiba.lg.jp/chikusan/toriinfluenza/>

厚生労働省「鳥インフルエンザに関するQ&A」：

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou02/qa.html>

厚生労働省「ポスター」：

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000144550.pdf>

厚生労働省「リーフレット」：

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000146943.pdf>

農林水産省「鳥インフルエンザに関する情報」：

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/>

インフルエンザ感染症

医 全

—— 定点医療機関における感染者数の報告は減少傾向です

市川保健所管内インフルエンザ発生状況（人）

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	590	2	0	0	4

※型非鑑別キット

（医療機関からの型報告なく不明な 161 例を除く）

2025年第2週から第3週における定点各医療機関からのインフルエンザ報告数をまとめた表です

第3週の千葉県全体の定点当たり報告数は、19.62(人)でした(図1)。市川管内の報告数は、16.06(人)でした(図2)。

第3週に千葉県内で報告のあった3,614例のうち、A型3,427例(94.8%)、B型78例(2.2%)であり、A型が多い状況です。

感染対策

- ①手洗い・手指衛生
- ②マスクの着用・咳エチケット
- ③室内の換気
- ④室内の湿度の保持
- ⑤人込みを避ける
- ⑥ワクチン接種

【参考】千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202503influenza.pdf>

【参考】厚生労働省：インフルエンザQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/QA2024.html

図1

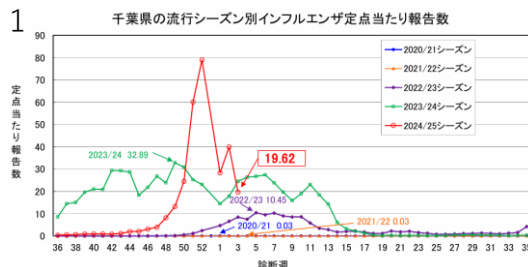
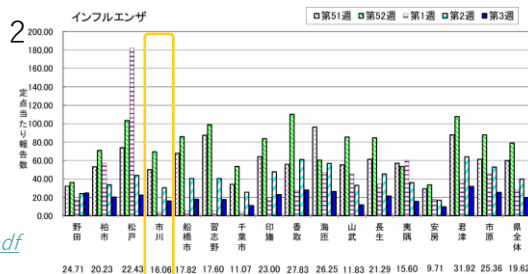


図2



—— 施設における集団発生件数は？

乳幼児施設や高齢者施設等において感染症の集団発生があった際は、保健所に報告が必要となっています。

配信日までに市川保健所に集団発生の報告があった施設のうち、乳幼児施設からの報告が多数となっています。そのほか、高齢者施設や医療機関からの発生報告もありました(図3)。

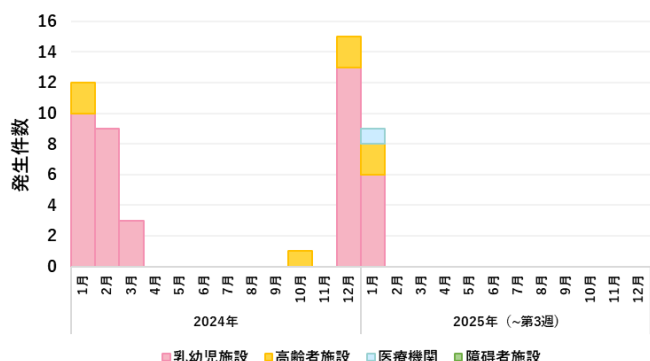


図3) 市川保健所におけるインフルエンザ集団発生件数の推移,2024年-2025年

—— 定点医療機関による感染者数の報告は減少傾向です

第3週の千葉県全体の定点当たり報告数は、6.33 (人)でした(図1)。報告数が多かった地域は、君津10.92(人)、香取9.83(人)、夷隅9.80(人)でした。

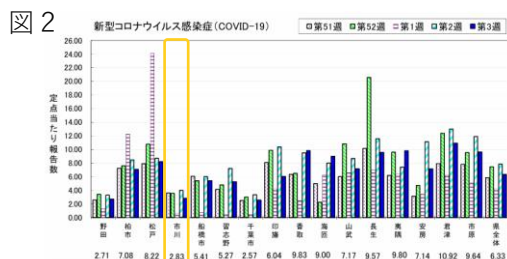
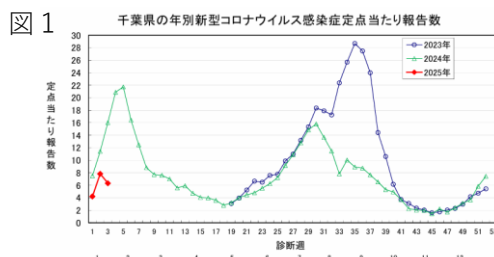
市川保健所管内の報告数は、前週より減少し、2.83(人)となっています(図2)。

【参考】千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202503covid19.pdf>

【参考】千葉県:新型コロナウイルス感染症について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/kansenshou/ncov/covid19-chiba-index.html>



感染
対策

インフルエンザを予防する
方法と同様です

—— 施設における集団発生件数は？

配信日までに市川保健所に集団発生の報告があった施設のうち、高齢者施設からの報告が多数となっています。そのほか、医療機関からの報告もありました(図3)。

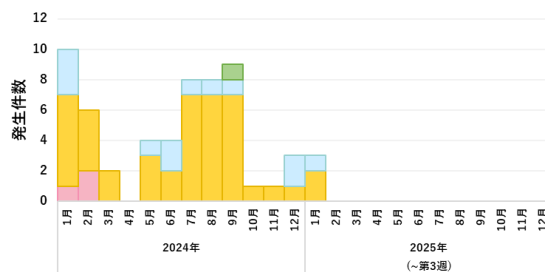


図3) 市川保健所における新型コロナウイルス感染症集団発生件数の推移, 2024年～2025年

お知らせ

- ・【医療機関の皆様へ】1~4類感染症及び5類感染症の一部(麻しん・風しん・侵襲性髄膜炎菌感染症)の発生届をご提出いただく際は、発生届のご提出と併せて保健所までお電話をお願いいたします
※閉庁日にお電話いただいた場合、「千葉県保健所夜間休日受付センター」の連絡先のアナウンスが流れますので、当該センターにご連絡をお願いいたします
- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまでご連絡をお願いします
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることをご了承ください
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任においてご利用ください
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします

配信
元

千葉県市川健康福祉センター
(市川保健所)
いちうら感染症情報
ichiurainf@pref.chiba.lg.jp